

# 仕事への展望 「キャリア・ビュー」

## 高い学生ほど就労満足感アップ

「5～10年後に自分が仕事している姿を思い描ける」など、仕事への展望（キャリア・ビュー）を良く描ける学生ほど、就労意欲や就職先への満足感が高いことが、

「しごと観育成」研究会（事務局・品川区）の調査で分かった。同会は学生は、キャリア・ビューを高める必要性を認識してほしい」と話している。

研究会は、民間のシンクタンクや専門学校13校などが連携し、昨年10月に設立。若者の離職率が高いことなどから、職業観をしっかりと持つため

### 「しごと観育成」研究会 「必要性認識を」

に、仕事に対する展望をキャリア・ビューと名付けた。

調査は昨年12月～今年1月にかけて、全国の専門学校、大学の最終学年で、就職活動を終了した学生に実施し、5163人から回答を得た。

「就職した後の仕事内容や会社での様子がイメージできる」「職場や業界になじめる」など、仕事に対する「意識」を、キャリア・ビュー項目として設定し、学生らに5点満点で回答を求めた。

その数値が平均以上の人を「高群」、平均以下の人を「低群」と分けて分析した。

析した。

「どのくらい働こうという気持ちがあるか」という質問に、大学生の高群は71%が「非常にある」だったが、低群は38%。

「4月からの就職先で働けることをどう思うか」には、高群は「非常にうれい」が68%、低群は25%だった。専門学校生についても同様の結果が出た。

高群の学生を分析したところ「多くの企業をまわるより、自己分析、業界研究など『質的活動』を重視する」「給料や社会貢献より、仕事のやりがいにとだわる『自己実現志向』を持つ」などが、キャリア・ビューを高める要因であることが分かった。

また専門学校生と大学生を比べると、専門学校では授業を通じてキャリア・ビューが形成されるが、大学生は就職活動で形成されているという。同会は「自己分析などは10年前から重要性が指摘されているが、今回の調査で『十分にやった』と答えた大学生は約4割。キャリア・ビューを高めるために教育機関がやれることはまだまだある」と話している。

【三木幸治】